

ノリ養殖がスタートしました

有明海ではノリ養殖が盛んに行われています。長崎県、佐賀県、福岡県、熊本県では、10月21日にノリ養殖の網に種を付ける採苗が一斉に開始され、今シーズンのノリ養殖がスタートしました。

長崎県では干潟で行う海上採苗を行っていて、干潮の時間帯に14～16枚ほど重ねたノリ網に落下傘と呼ばれるビニール袋をぶら下げ、落下傘の中に海水とノリの種（殻孢子）を出すカキ殻を入れます。海水が満ちてくると、ノリ網は海中に沈み、朝になるとカキ殻からノリの種が放出されてノリ網に種が付着します。この採苗は生産量に大きな影響を与える非常に大切な作業です。

これから来年の3月頃まで、干潟にノリ網が並んでいる風景が見られます。

※ノリは、春から秋はカキなどの貝殻内部に孢子体と呼ばれる、海藻としてのノリとは見た目が全く異なる形態で過ごし、秋に種（殻孢子）を放出して、これが生長すると食べている海藻のノリになります。



落下傘へのカキ殻入れ



落下傘に入っているカキ殻



採苗の様子



左写真の網の下